

すべての人の人権が守られる世界の実現をめざして

- アメリカ移民と在日外国人から学ぶ人権総合学習 -

キーワード： 総合的な学習の時間、国際理解、人権学習

丹波市立西小学校

細見 隆昭

1 はじめに

今回、アメリカの多文化共生について興味を持ち、ニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントンDCを訪れた。ニューヨークの街に着いた瞬間から多文化社会アメリカを実感することができた。エリス島に向かうフェリー乗り場があるバッテリー・パーク(Battery Park)には、陽気なジャマイカ系男性がアクロバットショーをしていたし、道の両端には、大きな袋を持ちカバンや時計を売るアフリカ系の人や、自画像や風景画を売る中国系の人たちが所狭しと露店を並べていた。レストランで食事を頼むときや、タクシーで行き先をつけるときには、スペイン語なまりの英語で返事をされ、さっぱり聞き取れずに苦労をした。おいしい食べ物がそろっている日本の総菜屋に似たデリ(Deli)の店主はみんな韓国系の人だった。アメリカは移民の国で、多民族で構成されることを肌で感じる事ができた。



図1 デリを経営する韓国人夫婦
ワシントンDCホテル近くにて

アメリカでは、様々な出身国の人たちがお互いの文化を尊重しながら生きている。母国語を英語としない子どもたちにも補習プログラムを用意し、力をつける教育を行っている。アメリカに移民して成功した人たちの活躍ぶりはいろいろな場面で目にすることがあるが、すべての人が簡単に成功を収めることができたのだろうか。また、すべての人が幸せに生きるために人権が尊重された社会になっているのだろうか。

今回、ワシントンDC郊外で出会ったチェ(雀)博士¹に、アメリカに移民してきた人々の苦労や差別の実態について話を聞く貴重な機会があった。アメリカ社会にも日本社会にも人権問題は存在する。これからの国際社会で活躍する子どもたちには、広い視野にたって人権問題を考えられるようになってほしい。そんな願いを持ちながら、今回の兵庫県国際理解教育研究プロジェクトに参加し、国際的な視野で人権問題を考えることができる教材開発を行った。

2 単元設定の趣旨

(1) これまでの取り組み

本校では、6年間を見通した人権教育のカリキュラムにしたがって、学年に応じてさま

¹ チェ(雀)博士…チェ キョンスン博士。在米コリアン1世。ワシントン青少年財団副会長

さまざまな人権問題について学習を積み重ねてきた。部落問題や障害者差別の分野では、最前線で活躍されている講師を招聘し学習を進めてきた。しかし、教室で学ぶことが主となり、国際社会に対応した人権問題は取り扱いにくかった。また、子どもたちが差別を自分自身や自分のくらしと結びつけて考え、なくすために行動することができにくい実態もあった。

そこで、すべての子どもが自分自身に自信と誇りを持てるようになってほしい、自分の生き方と結びつけて人種差別や部落差別などのさまざまな人権問題を考え、行動してほしいという願いを持ち、3年前から人権総合学習に取り組んできた。人権を守るために立ち上がった「人との出会い」を大切にしながら、差別のきびしさだけでなく、知恵を出し合い、力を合わせて差別に立ち向かった姿や生き方にふれながら学習を進めたいと考えた。

(2) 在米コリアンとの出会い

特に取り組みが難しかった国際理解問題については、ニューヨークやワシントンDCの取材活動で貴重な資料が集まり、情報源が広がった。特にワシントンDCでの在米コリアン チェ(雀)博士との懇談は、日本の差別と世界の差別を結び付ける貴重な資料²になった。

チェ博士は白人系移民と非白人系移民では成功への道のりが違うと語った。



図2 チェ博士の講義
ワシントンDC郊外にて

1) 白人系移民

図3上部が白人系移民で「U型」とたとえられた。まず、移民してきたときはアメリカの自由な雰囲気刺激され、気持ちは高揚している。しかし、言葉の壁、医療の壁にぶちあたり気分は抑圧される。しかし、英語を勉強したり仕事も順調になったりして、移民として成功し、回復する。

2) 非白人系移民

図3下部が非白人系移民で「V型」と説明された。夢を追って移民してきたときの気分は白人と同様に高揚している。しかし、雇用がなかったり、運転免許がなかなか取得できなかったり、医薬品が切れたりして、気分は抑圧される。その後の涙ぐましい努力によって、言語や文化もアメリカ化し、収入も安定し定住することができる。

チェ博士は、非白人系移民が定住したあと、中身はアメリカ人になったのに、本当のアメリカ人にはなれないことを指摘された。異質な文化にはさまれ、自分が何者であるのか悩み、非白人系移

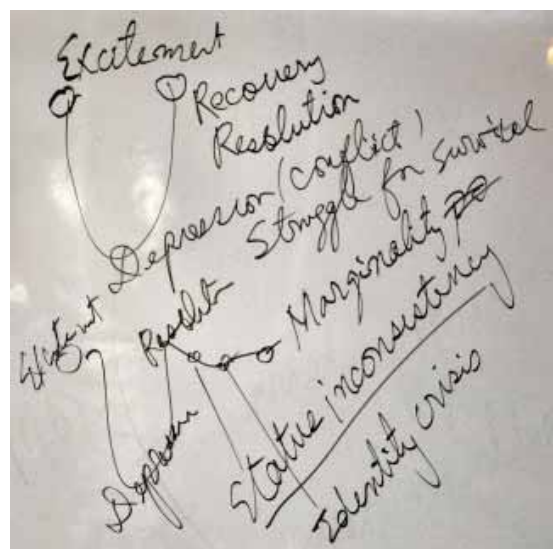


図3 白人系移民と非白人系移民の違い
チェ博士のメモから

² 貴重な資料・・・本報告書、訪問先「チェキョンスン博士」(記録 方政雄)で在米コリアンの歴史がまとめてあるので、そちらを参照していただきたい。

民はずっと悩み続けるといわれた。

(3) 民族差別と部落差別のつながり

移民した人たちは民族ごとにコミュニティを形成してきたことはよく知られている。コリアタウンやチャイナタウンが有名である。同一民族同士が助け合って、アメリカで成功しようとした。しかし、チェ博士はこのコミュニティについては逃避思考だと語った。「アメリカに移民としてきたのだからアメリカ文化に飛び込んでいかないといけない」あるコミュニティの中だけで生活せずに、外の文化とふれあいながら生活しないといけない」と。



図4 ワシントン DC 郊外
コリアタウンの一角

これは、現在の部落差別ともつながる。特定の部落の中だけで差別に対する勉強をしていては、差別はなくなるのである。他の部落を巻き込んで、ともに差別を考えていく仲間を増やすことが差別解消につながっていくのである。まさに、今回の単元で子どもたちに伝えたい一番重要な部分をアメリカでの取材で得ることができた。

(4) 人権を守る人との出会い

今年も5・6年生合同³で人権総合学習をスタートさせた。2年間という時間をかけ、体験を積み上げることで人権について認識を深め、差別や人権の問題が自分自身の問題であることを捉え、行動しようとする「生きてはたらく力」を身につけさせることねらった。また、5年生で学んだ力が、6年生での主体的な学びにつながることを期待している。

今回の学習ではこのプロジェクトで得た貴重な資料や人とのつながりを十分活用し、子どもが自らの課題を持って追究するなかで、子どもの学びを深化・発展させていきたい。どの分野についても「今」をキーワードに、人権を守るために活動している人たちに直接出会い、その生き方から学ぶという基本的な道筋を大切にしたい。

3 教材化の視点と方法

(1) 6年間の総合的な学習の時間カリキュラムデザイン

国際理解の視点からややずれるが、人権を学習するためには積み上げが必要である。そのためどのような考え方でカリキュラムを作成したのか少し述べたい。

本校の総合的な学習の時間・生活科の単元作成においては、図5のような6年間の見通しが持てるカリキュラムデザインになるように注意している。

1) 「学び方」から「生き方」へのステップアップ

生活科では地域の人や物とのかかわりを重視し、低学年のうちにたっぷり経験がつかめるよう考慮している。中学年では地域をベースに福祉や防災の視点で総合的な

³ 5・6年生合同・・・5年生、6年生を一つのまとまりにして、その中で「国際理解問題」「部落問題」「障害者差別」の3つの縦割りグループを作成する。

学習の時間を展開しながら、情報活用スキルを高めることをねらっている。高学年では、6年間で学んだ力を十分に発揮し、在日外国人や部落問題、障害者などの人権問題に取り組む。総合的な学習の時間では「学び方」から「生き方」の学習へステップアップしていくよう、カリキュラムをデザインしている。

2) 積み重ねが大切な人権学習

ところで、人権をテーマに学習を行うときには、低学年から発達段階に応じて繰り返し人権感覚を養う学習を積んでおかないと、差別のばらまきになる危険性が伴う。しかし、差別解消に向けて本気でとりくんでいる人物とふれあうことを通して、子どもたちの問題意識は確実に高まる。差別は日本だけの問題ではなく、アメリカでも日本と同じように人権問題に真剣にとりくんでいる人を知ることによって、子どもたちの視野はさらに広まることだろう。

3) 情報活用能力の育成

「学び方」の基礎となる情報活用能力に関しても整理している。例えば、低学年ではインタビューにデジタルカメラを活用し撮影する、ペイントソフトをつかって絵を描くなどの「操作スキル」をしっかりと身につけさせる。中学年ではローマ字入力や撮ってきた写真データをプレゼンテーションソフトに貼り付けて、資料を作成するなどの「活用スキル」を身に付けさせる。高学年では、機器の活用の仕方から指導するのではなく、低・中学年で身に付けた情報スキルを「発揮」して学習に取り組むなど、6年間を通して情報活用のスキルがつくようなカリキュラムを目指している。

したがって、本単元「すべての人の人権が守られる世界の実現をめざして」は6年間の集大成として位置づけている。

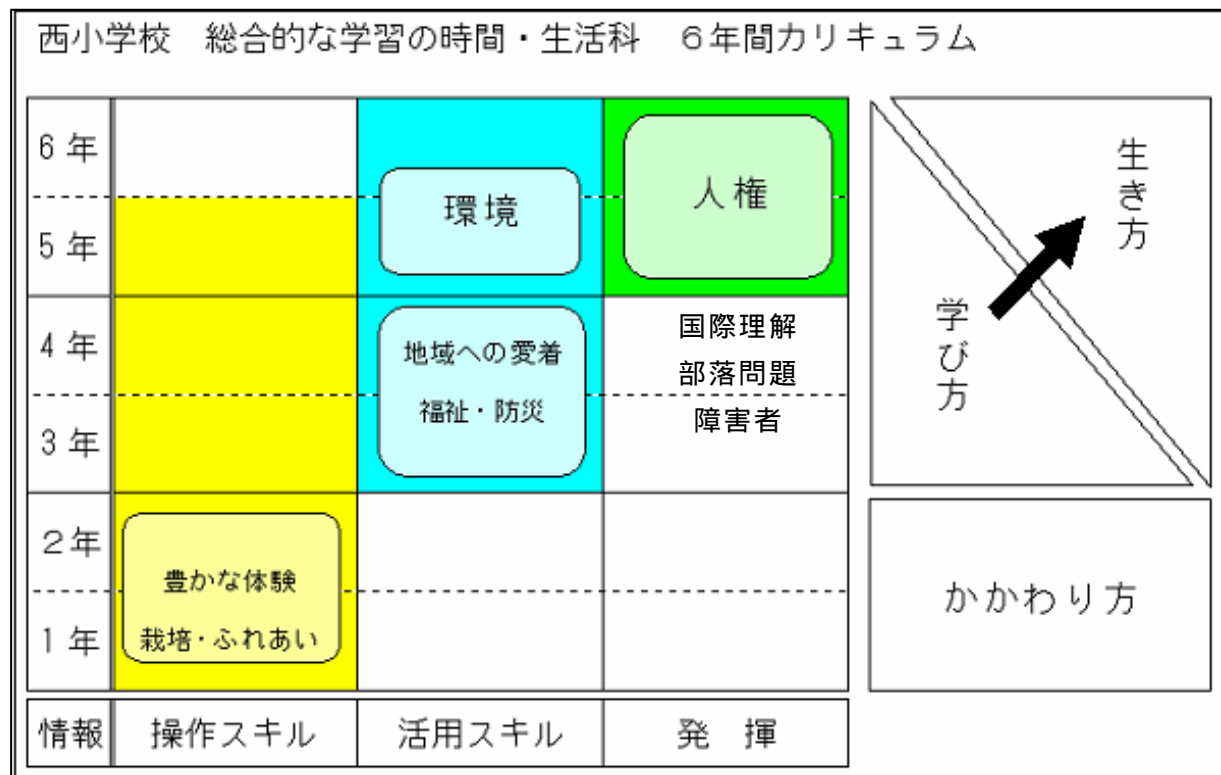


図5 西小学校6年間の総合的な学習の時間カリキュラムデザイン

(2) 本単元で身につけさせたい力一覧表

情報活用能力を「学び方」、社会に参画する態度を「生き方」と分類し、総合的な学習の時間で目指したい人とかかわりや地域への愛着を盛り込んだ身につけさせたい力一覧表(図6)を作成した。

つけたい力はそれぞれ、学び方(M1)(M2)(M3)(M4)、生き方(I1)(I2)(I3)と略し、指導目標や単元計画に盛り込んだ。

| | カテゴリ | つけたい力 |
|-----|---------------------|--|
| 学び方 | 見つける 見通す | 自ら課題を見つけ、課題解決のために見通しを持つことができる(M1) |
| | 集める | 課題解決に必要な情報を、目的に応じた情報手段を活用して集めることができる(M2) |
| | 選ぶ 見抜く まとめる | 集めた情報を分類整理し、価値あるものかどうか判断し、適切な方法でまとめることができる(M3) |
| | 伝え合う | 伝える相手に応じて資料を効果的に活用しながらコミュニケーションをとることができる(M4) |
| 生き方 | 情報社会で人を 大切にできる態度 | 多くの情報の中から不適切な情報を見極め、人を傷つけない生き方を考えることができる(I1) |
| | 人とゆたかにふれあう | さまざまな人たちの生き方にふれ、自分の生き方について考えることができる(I2) |
| | ふるさとを愛する | 地域のよさを知り、国際社会の一員として生きていく大切さを知ることができる(I3) |

図6 身につけさせたい力一覧表

(3) 各グループの視点

1) 国際理解グループ

「国際理解グループ」では、ワシントンDCでインタビューした在米コリアン チェ氏の差別との戦い、移民の歴史などの貴重な資料を活用して、アメリカ人になろうとした移民の思いに触れさせたい。また、在日コリアンを講師に招き、さらに、日本にいられている外国人労働者への支援活動に取り組んでおられる人々にも出会わせたい。マイノリティ側の意見を聞くことで、少数意見を大切に、すべての人が幸せになる世界を実現させるにはどうすればいいのか考えさせたい。また、それらの学習を通して、日本国内外の外国の人々が置かれている状況や願いを知り、また、支援活動に取り組む人々の考え方や情熱にふれさせるなかで、人権をめぐる世界の現状と自分たちにできることを考えさせたい。



図7 在日コリアンの講話(2005.2)

2) 部落問題グループ

「部落問題グループ」では、親の世代がどのように部落差別に出会い、どんな思いで運動に立ち上がり、活動してきたのかを考えさせたい。差別されてきたがゆえに守り育んできた文化や生き方から学び、自分の生き方と重ねて学習を進めたい。実際に部落へ足を運び、そこに生きてきた人と直に出会うことを通して、差別解消に向けて自分ができることを考えさせていきたい。

また、同和教材を学習するときには、事前に地域と保護者に必ず協力を呼びかけ、家庭や地域でも子どもをサポートする協力体制を確立しておきたい。

3) 障害者問題グループ

「障害者問題グループ」では、障害を持つ人の人権が守られていないという現実を確かめつつ、もう一度「障害」をどうとらえるべきなのかを追究させたい。

施設で働いている障害者と実際にふれあい、障害者の要求とその意味に気づかせたい。また、障害を持つ親の話聞くことで、障害者の人権を守り高めるために立ち上がった人たちの生き方にふれ、自分とのつながりを考えさせたい。

(4) 実際の指導にあたって

学習にあたっては、まず、昨年度の学習を思い出し、「人権を守る仲間になろう！」と6年生が5年生に呼びかける。また、アメリカで撮影してきた写真を見せながら、世界でも差別問題が起こっており、解決に向けて努力している人がいることを伝えたい。最初から地域に向けた「人権フォーラム」を意識させ、意欲的に活動が進められるようにしたい。また、昨年の反省から、子ども一人ひとりが自分の課題を持って学習を進められることを重視したい。そのために、各時間には学習目標を明確に示し、ワークシートや振り返りカードで一人ひとりの学びを育てる手だてとしたい。また、全員が講師から話を聞いたり、現地踏査をしたりして、自分なりの課題をつかむための時間と機会を保障したい。そして、グループ分けの際にも、自分の疑問・関心にしがたって選択できるように、教師と子どもがじっくりと相談する時間をつくり、自分の追究課題を明確に持つための支援をし、早い段階で「人権を守りたいという思いが伝わる発表」とはどんな発表なのかという「評価規準」を、子どもたちとともに、内容と発表の仕方の両面から明らかにし、それを意識させながら学



図8 ゆくつち資料館での講話
兵庫県黒田庄町M地区



図9 障害者自立支援施設
ワークホームもあ(氷上町)



図10 人権フォーラムのようす
(2005.2)

習活動に取り組ませたい。

人権の問題は、最終的には同じところに立脚しているとはいえ、非常に広範囲にわたっており、一つひとつの問題も深い。今回の人権学習が、子どもたちがこれからの長い人生を生きるときに、人権や差別・国際社会のことを考え続け、それを守ろうとする姿勢を持つ機会になればと思う。

4 単元の指導計画

- (1) 単元名 すべての人の人権が守られる世界の実現をめざして
- アメリカ移民と在日外国人から学ぶ人権総合学習 -

小学校5・6年生「総合的な学習の時間」における国際理解教育・人権教育の一環として

(2) 目標

人権を守るために立ち上がり活動されている人たちの思いや生き方にふれるなかで、自分のこれからの生き方について考える。【人とゆたかにふれあう】(I2)

自らの課題を見つけ出し、その課題を解決するための見通しを持つ。

【見つける・見通す】(M1)

資料を効果的に活用しながら、伝える相手を意識し、わかりやすく伝え合う。

【伝え合う】(M4)

(3) 単元指導計画(全32時間)

| 時数 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
|----------|---------------------------------------|---|
| ふれる 7 | 1 今、人権は守られているのか考える 2 (I1) | ・アメリカ移民の歴史を紹介することで、国際的な視点に立ち人権を守る大切さに気づかせる。 ・人権を守りたい、そのためにもっと詳しく調べたいという意欲を持たせる。 ・講話を聞いてからの個々のこだわりを把握する。 |
| | 3 ・教師のプレゼンテーション | |
| | 4 ・6年生から5年生への呼びかけ 課題をつかむために外部講師の話を | |
| | 5 聞く(M1)(I2) | |
| | 6 ・在米コリアンと在日コリアン | |
| | 7 ・就職、結婚における部落問題の現実 ・障害児の自立と親の思い | |

| | | |
|---------------|--|---|
| つかむ 5 | 1 自分の追求テーマを決める(M1) 2 【国際理解】【部落問題】【障害者問題】 課題解決するための計画を立てる 3 (M1) ・グループにわかれ、課題を解決するには 4 どうすればいいのか計画を立てる ・いつ、だれに、何を聞くのか計画表に 5 整理する ・カウンセリングタイム | ・人権を守ろうと活躍している人たちの話を整理し、自分の追求課題を明らかにさせる。 ・課題解決するためにどんな活動が必要か考えさせる。 ・情報をどのように効率よく集めるのか考えさせる。 ・個別の相談に応じる。 |
| むかう 1 4 | 1 グループごとにわかれて調べる 2 (M2)(I2) 3 【国際理解】 ・在米コリアン、在日コリアン 4 ・就職問題、選挙、各種手続き 5 【部落問題】 ・結婚差別、就職差別 6 ・インターネット上の差別 7 【障害者問題】 8 ・ノーマライゼーション 9 ・自立生活運動 10 グループごとにまとめる(M3) 11 ・全体としての発表構成を考える ・よい発表の評価規準を話し合う 12 ・友だちの意見を参考にして資料をまと 13 めなおす 中間発表会をする【本時】(M4)(I2) 14 ・グループごとに発表し、お互いを評価 する 資料をまとめなおす(M3) | ・電話やFAX、メール、図書資料などの手段を有効活用して調べさせる。 ・だれに知らせる情報かを意識させて選ばせる。 ・相手を意識した伝え方を考えさせる。 ・必要な情報提供先を提示する。 ・様々な人たちの生き方にふれ、自分の生き方について考えさせる。 ・まとめるときに、大事と思うことを話し合い、情報を整理させる。 ・調べたことをもとに話し合い、強く伝えたいことを明らかにする。 ・グループごとに相互評価させることで、曖昧な部分を明らかにし、よりよい発表資料を作成させる。 ・中間発表会で指摘された部分をよりわかりやすく修正させる。 |
| いかす 6 | 1 人権フォーラムの準備 ・広報 ・会場 2 人権フォーラム開催(M4)(I2) 3 ・プレゼン発表 ・劇化 4 ・感想の交流 5 人権白書づくり(I3) 6 ・各自がまとめの作文を書く | ・実行委員会を組織し、係分担をして全員で準備をさせる。 ・お世話になった講師や、公民館、各団体の長、PTAに呼びかけ、ともに人権を守る世界の実現を目指す仲間になってもらうよう働きかける。 |

(M1)から(I3)の内容は「身につけさせたい力一覧表」(図6)を参照。

5 本時の指導計画

(1) 目標

グループの発表を聞いて、「人権を守りたい」という思いを伝える工夫ができているか考える。【伝え合う】(M4) 【人とゆたかにふれあう】(I2)

(2) 展開

| 学習活動 | 教師の支援 | 評価 |
|--|--|--|
| 1 学習課題を知る。 | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 国際理解グループの発表を聞いて「人権を守りたい」という 思いを伝える工夫ができているかを話し合おう。 </div> | | |
| 2 国際理解グループの発表を聞く。 ・在米コリアンが受けた差別 ・在日コリアンが受けた差別 ・移民の成功への道 ・同一民族コミュニティのもつ意味について 3 発表について、工夫ができている点・改善したらよい点を話し合う。 ・差別をなくそうという思いが伝わってきた。 ・写真やビデオを効果的に利用し、わかりやすく伝えていた。 ・日本とアメリカの比較ができていた。 | あらかじめ子どもたちと話し合った評価規準をワークシートとして準備し、それをもとに相互評価させる。 内容については、自分のグループで調べてきた内容と比較しながら、自分が感じたことや新しく気づきのあったことなどを根拠にして発表させる。 | 発表内容を評価する規準 ・差別される人々の苦しみが見えてくるか。 ・差別への怒りがあるか。 ・差別に対する強い抵抗心が見えるか。 ・人権を守りたいという自分たちの思いが述べられるか。 ・学習を通して変わってきた自分の成長を表現できているか。 ・自分自身の生き方について考えることができているか。 |
| 4 本時のまとめをする。 ・ふりかえりカード | 振り返りカードに、本時の学習についての自己評価や、本時の感想を記入する。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時の評価基準 A 思いを伝えるための内容面の工夫を発表できた。 B 内容面の工夫を先生のアドバイスや友だちの意見を聞いて見つけることができた。 C 内容面の工夫を見つけれることができなかった。 </div> |

【相互評価ワークシート】すべての人の人権が守られる世界の実現をめざして

人権を守るために説得力のある発表だったかチェックし、変わってきた自分の成長について話し合おう。

()年 ()番 名前()

国際理解グループの発表を聞いて、説得力のある発表であったかチェックしましょう。

[伝え方チェックリスト]

| | |
|--|--|
| 【視線】聞き手を見渡したり、注目してほしい資料に目を移したりすることができていたか。 | |
| 【声】教室の奥まで届く声で、ゆっくりはっきり話せているか | |
| 【態度】自信を持って、自分の思いを伝えようとしたか | |
| 【指示棒】聞き手の目の流れを誘導できていたか | |
| 【資料】無駄な装飾がなく、分かりやすい工夫がされていたか | |
| 【資料】資料を活用し、事実を正しく伝えられていたか | |
| 【話の構成】話の筋は分かりやすかったか | |
| 【内容】人権を守っていこうとする自分たちの思いが述べられていたか | |
| 【内容】人権を守るための取り組みが提案できていたか | |

人権フォーラムに向けて、「こうすればさらによくなるよ」というアドバイスがあったら、書き込みましょう。

| |
|--|
| |
|--|

人権学習を通じて、変わってきた自分の成長について書きましょう。

| |
|--|
| |
|--|

先生のコメント

| |
|--|
| |
|--|

【自己評価ワークシート】すべての人の人権が守られる世界の実現をめざして

人権を守るために説得力のある発表であるかチェックし、変わってきた自分の成長について話し合おう。

()年 ()番 名前()

今日の学習をふりかえろう。

1 人権フォーラムに向けて、他のグループの発表を聞いて、資料の改善点を話し合うことができたか。

- A ワークシートに書くことができ、改善点についても発表することができた。
- B ワークシートに書くことはできたが、その改善点を発表することはできなかった。
- C 発表を聞いて、改善点を見つけることができなかった。

2 人権学習を通じて変わってきた自分の成長を表現することができたか。

- A 変わってきた自分の成長を表現することができた。
- B 変わってきた自分の成長をワークシートに書くことはできたが、発表することはできなかった。
- C 変わってきた自分の成長に気づくことができなかった。

3 今日の感想

| |
|-------------------------------|
| <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> |
|-------------------------------|

4 先生のコメント

| |
|------------------|
| |
|------------------|

6 実践と評価

(1) 2005年11月28日 単元の導入

アメリカの移民について説明し、子どもたちに問題提起した。

| <p>人権総合学習につながる 多文化社会アメリカについて</p> <p>2005年11月28日(月) 学校集会 8:15~8:30</p> <p>丹波市立西小学校</p>  | <p>何でしょう?</p> <p>自由の女神 (じゆうのめがみ)</p> <p>アメリカの ニューヨークの 島にある</p>  | <p>エリス島 移民博物館(いみんはくぶつかん)</p>  | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| <p>ヨーロッパからの移民(いみん)</p>  | <p>日本からの移民(いみん)</p>  | <p>チャイナタウン(中国)</p>  | | | | | | | | | | | | |
| <p>コリアタウン(韓国かんこく)</p>  | <p>リトルトーキョー(日本)</p>  | <p>移民の差別とのたたかい</p> <p>アメリカで成功 するために、 移民は差別をの りこえてきました</p>  | | | | | | | | | | | | |
| <p>移民の差別とのたたかい</p> <p>○ヨーロッパ(白人)</p> <p>○有色人種</p> <p>どうしても選べられない壁</p>   | <p>多文化共生</p> <p>□ すべての人の 人権が守れる社会 をめざして</p> <p>人種のルツボ ↓ サラダボウル 一人ひとりが 輝けるように</p>  | <p>丹波市の外国人は何人いる?</p>  <table border="1"> <caption>丹波市外国人人口 合計 261人 (11/19日)</caption> <thead> <tr> <th>国籍</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>韓国</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>インド</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> | 国籍 | 人数 | 韓国 | 137 | 中国 | 26 | タイ | 14 | インド | 14 | その他 | 70 |
| 国籍 | 人数 | | | | | | | | | | | | | |
| 韓国 | 137 | | | | | | | | | | | | | |
| 中国 | 26 | | | | | | | | | | | | | |
| タイ | 14 | | | | | | | | | | | | | |
| インド | 14 | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 70 | | | | | | | | | | | | | |
| <p>日本に住む外国の人は どう思っているのだろうか。</p> <p><input type="checkbox"/> こまっていることはないかな?</p> <p><input type="checkbox"/> 差別されていることはないかな?</p> <p><input type="checkbox"/> 5・6年生は人権総合学習で調べてみよう!</p>  | | | | | | | | | | | | | | |

(2) 移民についてのプレゼン原稿

- 1 今から多文化社会アメリカについての話をします。
- 2 さて、これは何でしょう。自由の女神です。これはアメリカのニューヨークの近くの島にあります。先生は、夏休みに2週間、アメリカに行ってきました。そこで、勉強した話をこれからしたいと思います。
- 3 自由の女神がある近くに「エリス島」があります。エリス島には「移民博物館」があります。移民とは仕事をするために、国を捨ててアメリカに移り住むということです。100年ほど前、アメリカへの移民が増えたので、1892年入国管理事務所が設置されました。1200万人がここを通過してアメリカに入っていました。
- 4 これはヨーロッパからの移民です。かばんを持って行列を作って入国審査を待っているのです。ここでは、健康チェックを受けて、名前を書くことでアメリカに入ることができました。エリス島には移民の名前が記録されているので、今では、自分のおじいさん、おばあさんを捜すアメリカ人観光客もたくさんやってきます。
- 5 もちろん、日本人もアメリカに移民しました。これはびっくりするような話ですが、アメリカ人の中には、日本人は今でも髪を結って、着物を着ていると思っている人もいます。今から100年ほど前、日本からもアメリカにたくさんの方が移住しました。
- 6 さて、これはニューヨークの街のようすです。何か気づくことはありますか。みなさんがよく知っている漢字でかかれた看板がありますね。これはチャイナタウンといって中国の人たちがたくさんいる街のようすです。中国人の人たちは移民してくると、まず中華料理店を作るとい話があります。中華料理店が中国人たちのコミュニティになり、言葉や医療の壁で困っている人をお互いに助けていたのです。
- 7 さて、これはどこの国かわかりますか。韓国です。韓国の人たちがたくさん住んでいる町はコリアタウンといいます。韓国の人たちが移民してくると、まず、街に教会を作るとい話もあります。教会でお互いに助け合って、アメリカで生活をしていきました。韓国の人たちはニューヨークではビジネスで成功した人というイメージがあります。「デリ」という、日本で言うコンビニのような店の店長は、みんな韓国の人たちでした。
- 8 これはどこの国でしょうか。「ぎょうざ」って書いてありますよね。日本です。日本人がたくさん住んでいる町を「リトルトーキョー」といいます。日本人も最初は日本人同士集まって暮らしていました。
- 9 このように国ごとに集まって、助け合っていた移民ですが、アメリカで成功するためには様々な差別とたたかわなければなりません。アメリカで韓国人の元大学の先生から差別についての話を聞くことができました。この先生によると、差別は2つの種類に分けられるといいます。
- 10 まず、ヨーロッパの人たちを考えましょう。ヨーロッパの人たちは、成功を夢見てアメリカにやってきます。そこで、言葉や病気などの第一の壁にぶちあたります。がんばって英語を勉強して、仕事をしてアメリカで成功していきます。成功した人たちは自分の国の集まりから自立していきます。

次に、有色人種の人を考えてみましょう。有色とは、黒人や日本人のことです。この人たちは白人と同じようにアメリカで成功を夢見てやってきます。同じように言葉や医療の壁にあたり、一所懸命努力して克服しようとしします。しかし、仕事で成功するよう

になっても、完全にアメリカ人として見てもらえないことがあったのです。見た目で差別されることがあるのです。

1 1 そこで、アメリカでは「多文化共生」といって、いろいろな国の人の文化を大切に考え、すべての人の人権が守られる社会を目指す取り組みがされています。昔は、アメリカはいろいろな国の人がいて、「人種のルツボ」といわれていました。ルツボというのは、鉄を溶かす陶器のつぼのことです。しかし、ルツボになってしまうと、いろいろな人が解け合って、まじってしまいます。そこで、最近では「サラダボール」と呼ぶようになってきました。サラダはキュウリやトマトなど一つひとつの野菜が生き生きとし、全体としてよい味になるようになってきました。サラダのように、一人ひとりが輝けるような社会にしていこうと努力している人がアメリカにはいます。

1 2 さて、そんなアメリカの話をしてきましたが、今度は日本でのことを考えたいと思います。みなさん、丹波市では何人の外国人がいるか知っていますか。平成17年9月の段階で、合計で761人、氷上町では200人の外国人がいます。

1 3 この日本に住む外国人の人がどのように思っているのか考えたことはありますか。日本での生活で困っていることはないかな、差別されていることはないでしょうか。そんなことを、人権総合学習で調べてほしいと思います。5・6年生のがんばりに期待します。

(3) 成果と課題

1) 人とのふれあいを通じて差別を身近に感じ始めた

アメリカであった人のビデオや写真を見せることで、国際的な感覚で差別は日本だけの問題ではないことに子どもたちは気づいた。教科書だけの学習ではなく、ゆくつち資料館やワークホームもあなどの現地見学を通して、人とのふれあいを楽しみ、講師の話を通じて差別を自分の問題として捉えることができた。

2) 差別について考える仲間を増やすことができた

「人権フォーラム」では、情報機器を使ってわかりやすく伝える工夫をしたり、地域の人や保護者に人権を守る大切さを訴えたりする試みを行った。子どもたちが書いた作文には、「この学習をするまでは、自分には関係ないことだどこかで思っていた」「来年も続けて、差別をなくす力をもっとつけたい」「人権を守るなかまをもっと増やしていきたい」という気づきや変化が随所に見られた。子ども自身の心に届き、「わかった」「変わった」という感動がある学習であったことが大きな成果であったと思う。

参考文献

池上彰 そうだったのか！アメリカ 2005年 集英社

稲垣有一・寺木伸明・中尾健次 部落史をどう教えるか第2版 1993年 解放出版社

研修の記録 「確かな学力」を身につけた西っ子の育成 2004年 丹波市立西小学校